

平成26年度 杉森中学校 第5回学校運営協議会 会議録

日時 平成 26 年度 10 月 31 日(金)17 時 00 分～18 時 45 分

会場 杉森中学校 会議室

出席者

《協議会委員》 高崎 彰
大川 洋
安藤 雄太
岡田 円治
國籐 久司
一野 まり
向笠 佐奈江
大橋 亮介(校長)



《杉森中学校事務局》
工藤 康男(副校長)
加藤 雄一(進路指導主任)
シュティーベリング 育子(教務主任)
長谷川 祐子(嘱託事務)



会長 杉森中のイベント「合唱コンクール」がありましたね。見せていただきました。代々木のオリンピック記念青少年総合センターで行われましたが、デング熱対策をしていました。男女差があるけれど、3年生はそれを克服しながら上手に歌っていましたね。音楽の先生を中心に今後も頑張ってください。

29日には校内研修「学び合い」がありました。シュティー先生の美術の授業でした。グラデーション・配色・レタリングのスキルをきちんと身に付けているのがわかりました。班に分かれてPC室でやっていたので、普段とは少し雰囲気が違っていただけたかもしれませんね。

また、生徒たちの発表を見ることができました。ポスターをデータ化し、一斉にそれぞれのパソコンに送って、見られるシステムは素晴らしい。一目瞭然でとてもわかりやすかったと思います。もう少し時間があれば、話し合いなどに発展させられますね。忙しい教務のお仕事もあるのに、大変な事だと思いました。



司校 報告事項をどうぞ。

会長 2年生は鎌倉に校外活動に行きました。班活動が落ち着いてできました。

3年生は10月1日から修学旅行でした。1泊目は飛鳥での民泊がとてもよかったです。各家庭から「杉森の生徒はきちんとしつけられている」とお褒めの言葉をいただきました。「三日間笑顔で過ごそう」の言葉通りに過ごせた修学旅行でした。



校 長 その後すぐに合唱コンクールがありました。3年生の男女差をわずかな期間で克服してくれました。また来年は今の1・2年が答えをだしてくれるでしょう。



オリンピック記念青少年総合センター 合唱コンクール

副 校 長 各学年だよりに平成26年度の東京都学力調査(2学年)と、杉並区の特設課題に対する調査の結果(1・2・3学年) 全国学力調査(3学年)がありました。

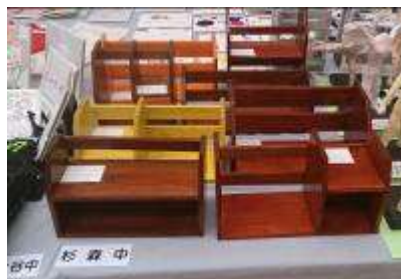
1学年では、国語・数学共に区の平均とほぼ同じ位でした。2学年は杉並区での比較では低いものがありますが、都の調査では平均を上回っています。

3学年は全国テストの国語と数学2教科とも平均を上回っていました

教 務 主 任 10月に阿佐ヶ谷ジャズストリートのジャズアート展に参加しました。杉森中が参加するのは今年で3回目です。新聞に取り上げられました。作品の写真と共に美術部の部長のコメントなども掲載されました。

11月5日中学校連合文化祭作品展がセッションで行われます。ぜひご覧ください。連合文化祭が終わると、すぐに期末テストです。11月17日いのちの講演会があります。国際基督教大学のランガガー(Langager.Mark.W)先生がいらして、全学年に講演をしてくださいます。ESD(持続可能な開発のための教育)のお話しもしていただけたと思います。

10月22日は土曜日授業です。



セッション杉並 杉並区連合文化祭

進路指導主任 進路指導からの報告をします。3年生の面談が10月21日から始まりました。12月は1・2年生も面談をします。

10月21日は1学年が明治から講師を招いて食育の授業があります。栄養についての学習とバター作りです。

2学年は栄養士に入ってもらい、「理想的な献立作り」ということで、班に分かれて献立をたてていきます。優秀なものは、学校給食として3学期に献立に入れてもらえます。3年は、受験が終わり落ち着いた3月に郷土料理「鍋」をテーマにした食育を予定しています。

会長 先ほどの、阿佐ヶ谷ジャズストリートの記事が載ったのは何新聞ですか？

教務主任 10月25日の東京新聞です。

A委員 わあ、すごく大きいんですね。布に描いたんですか？

教務主任 タイベックスシートにアクリル絵の具で美術部員が描きました。2週間、毎日残って描いたんです。杉森祭や校内作品展に飾ります。

A委員 美術部の生徒たちの名前もぜひ出してあげてください。モチベーションがありますよね。

教務主任 コンピューターのおかげで下絵の情報を得ることでできました。人の肌の色を出すのが難しかったようです。

会長 オープンスペースも含め、展示をきちんとして、大切に保存してもらいたいですね。

教務主任 ぜひそうします。



A 委 員 特定課題の%というのは？

副 校 長 平均正答率ということです。平均点とはそう違うのですが。

B 委 員 どこの学校でも最近の子供たちは数学の力が落ちているように思います。小学校での学習に原因があるのでしょうか？

副 校 長 算数は積み重ねですからね。小学 3・4 年生までに基礎ができていると、発展していくのですが、小学校における基礎、中学ではできない所をもどって学習するのが大切です。

校 長 東京都ではこの先、数学と英語が習熟度別になっていく予定です。小学校では、4 年生までの学力を定着させることが重要と考えています。

A 委 員 学力が落ちているというのは、論理的にはできるということなのか、基本的なことができていないということなのか？どうなのでしょう。

B 委 員 数学を教えていると、今やっている単元はよくできているが、積み重ねができていない気がします。考える力が足りないというんでしょうか。同じ 5 をつけられる子供も数年前とは違う気がします。

校 長 同じ集団であれば、工夫ある指導もできる、さらに個の能力を伸ばすということで習熟度別にしていくようです。

A 委 員 なぜ英語と数学なんですか？

校 長 どちらも積み重ねて学習することが重要、語は世界にでていくのに必要なもの。数学は最低限必要な知識という考えのようです。

A 委 員 個性を伸ばす教育というのはどうなってしまったのでしょうか。理科を重視し個性を伸ばすような方針ができなくなり、学校の個性が出なくなりませんか？

校 長 学習の積み残しや学力が下がったので、テコ入れしなくてはならなくなり、個性を大切にしつつ習熟度別授業を重視するようになって来ました。

会 長 どの教科であれ、重要なことに変わりはないですね。小学校では英語学習が取り入れられていますが、ただ教員の人数を増やせばいいのか。力のある先生に教えていただきたいです。

進路指導主任 日本人が英語を身に付けて、それを教えていくのは急にはできません。身に付けるのには時間が必要なんです。先生の数を増やして時間を多く取れば英語が上達するかというと、そうは言えないと思います。

A 委 員 修学旅行で民泊されたということですか…

校 長 ホームステイということです。現地の商工会議所が中心になってホームステイ先を紹介してくれます。4 人一組で家庭に入ります。夕方から翌朝までお世話になりました。他に農作業などの家業を手伝うというプログラムもあるそうです。最近実施が増えていて、修学旅行シーズンが終わると、海外からも留学生が来るそうです。このシステムは 3 年たちますが、とても良いプログラムだと思います。

司 会 沖縄でもやっていますね。

校 長 沖縄では高校生がやっているようですね。

司 会 もとてもよい機会になるようですね。民泊だとその年によって内容が違って
くるような事は…。

校 長 その年によって違いますが、3年前の民泊もとてもよかったです。

会 長 旅行者に頼らない、飛鳥のよさをじっくり味わえるというのは良いですね。
ぜひ発展させてください。

司 会 語り部のような方が文化を伝えてくれるといいのですが。では、学校運協議
会営連絡について向笠さんから…。

C 委 員 CS連絡会に、高崎会長の代理で出席しました。CS連絡会の事前アンケート
結果の集計のまとめということでした。資料をご覧ください。各校の取り組
み・問題点が載っています。井出教育長のご挨拶の中で、CSをやってみてど
うだったか?という問いに対する委員さんの感想を聞いたところ、「学校の先生
が子供たちの良くなった点を評価するようになった。」「生徒の教育環境がよ
くなった」「地域コミュニティーの活性化につながった」ということがあげられ
たということです。

杉森・井草・荻中・井荻中がグループになりました。アドバイザーにこれか
らCSを立ち上げる松溪中の校長先生が同席し情報交換をしました。杉森中は
土曜授業で英語授業をしていることや、積極的にボランティア活動に参加して
いることをお話しました。他校のCSは、井草中ではコミ担という地域の担当
がいて、地域の人材を生かした活動をしている。荻窪中は「おぎすけ」という
委員さんたちが学校の教育のサポートをしています。荻窪中は荻中暦を作って
地域の行事と学校行事を載せていました。どちらも支援本部と深く関わり、子
供の中にCS委員が入っているという様子がよくわかりました。井荻中はまだ
CS発足から2年ということでこれからどのように取り組むかを考えていると
のこと。松溪中の先生から「地域育成はどんな活動をされているのですか?」
と聞かれて「運動会や地域活動のボランティアのお手伝いをしています」とお
話しをしたところ、校長先生より「地域が学校の中に入ってくることも大事だ
けれど子供たちが地域に出て行くことも大事ですね。」とおっしゃっていました。
支援本部とCSのかかわりの話しが中心になってしまいましたが、二つが
一緒になって学校を支えていくような仲立ちをCSが担っている事、人材の確
保と育成がこれからの課題だという事に意見がまとまりました。井出教育長の
まとめとしては、「CS立ち上げのときにうまくいかなかったものが、支援本部
を立ち上げて成熟してきた。地域の実情にあうような活動が大切。」との事で
した。

司 会 では、次回は12月17日です。